

肺結核患者ノ罹病側及臥位ノ關係ニ就テ

東京市療養所(所長田澤博士)

加 藤 三 郎

内容目次

緒 言	第三節 患側ト臥位ノ關係ニ對スル總括
第一章 肺結核患者ノ病期及患側ノ別	第四章 偏側肺結核患者發病前後ニ於ケル臥位ノ關係
第二章 肺結核患者ニ合併セル肋膜炎ノ患側別	第五章 統計ノ結果ニ對スル考察
第三章 肺結核患者ノ臥位ニ就テ	第六章 患側臥ヲ採ランメン實驗例
第一節 男子肺結核患者八〇〇名ニ於ケル患側ト臥位	總括的觀察
第二節 女子肺結核患者四〇〇名ニ於ケル患側ト臥位	文 獻

緒 言

Dettweiler ガ肺結核療法ノ一要項トシテ既ニ一八八四年ニ安臥大氣療法ヲ試ミタリシハ周知ノ事實ナリ。其後 Z, Bridge, Henry Sewall, Charles Danison 等ハ全身ノ安靜ノミナラズ、呼吸運動ノ制限ニ依ル局所的安臥療法ノ必要ヲ力説スルニ至レリ。又絆創膏法ノ有效ナルコトハ一八八九年頃ヨリ Danison ニ依ツテ唱ヘラレタリ、Sewall 及 Swezey 等ハ又胸帶(Hering bone belting)ヲ以テ胸部ノ安靜ヲ計リ、更ニ又 R. Brauer ハ既ニ一九〇五年頃ヨリ肺患部ノ壓縮療法(Pneumothax)ノ良效ナルコトニ着眼シ一九〇九年ニハ人工氣胞(Pneumothax)胸部整形術(Thoracoplastik)ノ併用ヲ試ミタリ、爾來本法追試者少ナカラズ。又一九一一年 Suetz ハ片側肺下葉ノ重症結核ニ對シ横隔膜神經切斷(Phrenicotomy)ヲ賞用シ其後 W. Felix ニヨリ横隔膜神經ヲ抽出初除(Phrenicus exarrese)法ノ有效ナルコトヲ報告セラレタリ。更ニ又一九二一年 C. Jacobous ハ胸部壓縮療法ノ完全ヲ期スルニ胸膜ノ索狀癒著ヲ剝離又切斷スルノ方法ヲ報告セリ。其他多數ノ學者ニヨリ罹患肺臟ノ呼吸運動ヲ制限セントスル所ノ諸方法盛ンニ行ハル、ニ至レリ。當時又 Edward Archbald 等モ

既ニ外科的療法ニ著眼シタルガ何レモ皆肺臟患部ノ安靜ヲ圖ルニアリ。又 Sewall Swezey ハ横隔膜ノ運動ヲ制限シテ比較的結核ニ罹リ易キ肺尖部及上葉附近ノ安靜ヲ試ミタリ。又 S. A. Knopf ハ動物ノ冬眠状態ノ考察或ハ呼吸緩徐ナル動物ノ多ク長命ナル事ニ著眼シ、肺結核患者ノ呼吸運動モ人工的ニ制限スル事可能ニシテ且有益ナルベキヲ想像シ Sewall Swezey 等ノ唱フル横隔膜運動ノ制限ヲ自己ニ經驗シ、或ハ患者ニ應用シ、遂ニ S. A. Knopf ハ意志ヲ以テ呼吸ヲ制限シ得ル一ノ具體的方法トシテ患者ニ命ズルニ先ヅ右足ノ爪先ヨリ吸氣ヲ始メ同側横隔膜下ニ來リ、之レヨリ横ニ他側ニ出デ呼氣トシテ左足ノ下肢ニ沿フテ下行セシムルノ觀念ヲ以テセリ。

惟フニ其方法ハ千差萬別ナルモ要ハ全身の及ビ局部的ノ安靜ヲ主眼トスルモノナル事ハ明ナル事實ナリ。然ラバ肺結核患者ノ絶エズ就牀セル者ハ勿論、晝間離牀セル輕症者ト雖モ、其臥位ヲ合理的ニ一定シ罹患側ノ呼吸運動ヲ出來ル丈ケ制限スルヲ有利トスルハ蓋シ當然ノ推論ナラン。換言スレバ患側臥(患側ヲ下ニスル臥位)ヲ取ラシムルヲ以テ合理的ナリト思惟セラル、ナリ。

惟フニ總テノ動物ハ本能的ニ罹病局所ヲ保護シテ安靜ヲ保タシムルノ性アリ。故ニ肺結核患者ニ於テモ他人ヨリ何等制限セラレズ唯自身ガ本能的ニ取リタル臥位ヲ調査シ之ヲ統計的ニ攻究センニハ恐ラク患者臥位ニ關スル臨牀的考察ノ好資料ヲ得ベシト思惟シ且ツ患者ガ自然ニ定メタル臥位ハ大多數患側臥ナルベシトノ豫想ヲ有シ東京市療養所患者千二百名ニツキテ各種調査ヲ行ヒタリ。其結果ハ必ズシモ當ラザリシガ而カモ是亦統計上ノ一事實トシテ考察ノ價値ナシトセズ、且又豫想ニ反セル點ト雖モ解釋ニヨリテハ必ズシモ豫想ヲ裏切リシニアラザル如キ感アリ。余ハ尙患者ガ現在ノ臥位ヲ取ルニ至レル理由、或ハ動機ニツキ分類觀察シ又一部ノ患者ニ於テ特ニ患側臥(患部ヲ下ニス)ヲ命ジテ安靜ヲ嚴守セシメタルニ稍々興味アル成績ヲ得タリ。尙又上記千二百名中肋膜炎合併患者二百五十名ニ就キ其患側別統計調査ヲモ行ヒタリ(本報告第二章參照)以下順次是等調査ノ大要ヲ記載セン。

第一章 肺結核患者ノ病期及患側ノ別

東京市療養所ニ於テ余ガ直接診斷調査シタル患者總計一二〇〇名ニシテ、其病期ヲツルバン、ゲルハルドノ分類法ニ從

ヒテ示セバ左ノ如シ。

第一期患者ハ合計六十二名ニシテ、内男子ハ四十一名、之ヲ患側別ニスレバ右二十三名、左十二名、左右殆ンド等シキ者六名アリ。女子ハ合計二十一名ニシテ患側ハ右十三名、左六名、左右殆ンド等シキ者二名ナリ。第二期患者ハ合計三百四十三名ニシテ内男子ハ二百二十三名其患側別ハ右百十五名、左七十八名、兩側殆ンド等シキ者三十名ナリ。女子ハ合計百二十名ニシテ其患側別ハ右五十九名、左五十九名、兩側殆ンド等シキ者十一名ナリ。第三期患者ハ合計七百九十五名ニシテ、内男子ハ五百三十六名其患側別ハ右百九十六名、左二百二十三名、兩側殆ンド等シキ者百十七名ナリ。女子ハ二百五十九名ニシテ其患側別右九十名、左百十九名兩側殆ンド等シキ者五十名ナリ。

之レニ依ツテ見ルニ(第一表參照)男子八百名ノ左右患側ノ割合ハ第一期患者ニ於テハ右患側患者二十三名(二・九%)、左患側患者十二名(一・五%)ニシテ右側ノ患者多ク、第二期患者ニ於テモ右側百十五名(一四・四%)ニ對シ左側七十八名(九・八%)ニシテ右側患者ノ方少シク多キモ第三期患者ニ於テハ左右共殆ンド同等ニ侵サレシ例モ多ク、一側罹患者又ハ特ニ一側ノ甚ダシク侵サレシ患者ニテモ右側患者特ニ多キニアラズ、寧ロ左側ノ患者幾分多カリキ、次ニ女子四百名ノ割合ニ就テ見ルニ第一期ニテハ右患側十三名(三・二%)ニシテ左患側ハ六名(一・五%)ナレドモ第二期及第三期ハ右患側患者ノ方寧ロ幾分少ナキ數ヲ示シタリ。(第一表參照)

今文獻ニ徵スルニ、左右兩側何レガ多ク侵サレ易キカニ就テハ學者間其說ヲ異ニセリ、例ヘバ Laennec ハ肺結核患者ノ多クハ右肺尖ニ始マリ重症トナルニ及ンデ左肺多ク侵カサル、モノナリトセルモ、之ニ反シ Bremer ハ通常肺結核ハ左肺尖ニ始マルトシ Williams ハ千例ニ於テ第一期患者右側二八七名、左側一六八名即チ右患側ハ左患側ノ約二倍ナリトシ、之レニ反シテ第三期患者ハ右側四三名、左側五三名ニシテ第一期ハ右側多ク第二期、第三期ハ左側多シトセリ、而シテ E. de Batz ハ小兒結核患者七十九名中右側五十九名、左側二十名即チ右側ノ多キヲ示シ又 Nagel ハ婦人患者一〇八一名ニ於テ通常右肺罹病シ易ク、且ツ重症ニ陥リ易シト云フ。Victor Scheel ハ二〇二名ノ解剖例ニ於テ肺結核患者二四六名ノ内右肺尖一三七名、左肺尖一〇九名トシ、之レニ依ツテ右側多キヲ示セリ。Oscar Horn ハ一六一例ノ解

剖例中右側四三名、左側七一名、兩側四七名ニテ即チ左側著シク多シト報告ス。N. J. Strandgaard ハ一九〇二年ヨリ一
九〇九年ノ八年間ニ互ル二〇四二例ノ解剖例ニ於テ右患側一二九二名(六三%)、左患側七五〇名(三七%)ヲ示シ、又明
カニ偏側患者ノミノ例ノ約四分ノ一即五一〇例(八一・〇%)ハ右側患者ニシテ一二三例(二九%)ハ左側患者ナリシト述
ブ。尙之ヲ各期ニ分チテ比較スレバ其割合左ノ如クニシテ第一期ハ右側多ク、第三期ハ左側ニ著シキ高率ヲ示セリ。

第一期右患側例 667 (83%) = 對シ左患側例 137 (17%) 4:1

第二期右患側例 385 (60%) = 對シ左患側例 252 (40%) 3:2

第三期右患側例 240 (40%) = 對シ左患側例 361 (60%) 2:3

即チ余ノ統計ニ於テ之レヲ見ルモ、男女合計第一期右側患者二六名(三・〇%)ニ對シ左側患者一八名(一・五%)然ルニ第
三期患者ニ於テハ著明ニ又ハ比較的多少右側ノ侵サレシ患者合計二八六名(三三・八%)ニ對シ著明ニ又ハ比較的多少左
側ノ侵サレシ患者三四二名(二八・六%)ナリ故ニ第一期ニハ右側多ク、左側患者少數ナルモ、第三期ニテハ之レニ反シ右
側患者ヨリモ左側患者ノ方多數ヲ示シタリ。

第二章 肺結核患者ニ合併セル肋膜炎ノ患側別

肺結核ノ合併症トシテ最モ屢々見ルハ肋膜炎ナリ。而シテ左右何レノ胸側ガ最モ多ク之ヲ併發スルカハ肺罹患側統計ニ
於ケルガ如ク、觀察者ニヨリ其說ヲ異ニセリ。唯多クノ場合肋膜炎ノ侵サレシ胸側ガ肺結核ニモ亦罹病シ易キハ事實ニシ
テ Strandgaard ノ如キモ第一期肺結核患者ニハ右側肋膜炎多ク、第三期ニ在リテハ左側肋膜炎ノ多キヲ報告セリ。余ハ
自己ノ肺結核臥位調査中觀察記載セシ合計二五〇例(内男子一五〇名、女子一〇〇名)ノ肋膜炎合併患者ヲ本統計ノ肺結
核病期、罹病胸側等ニ比較シテ第二表ニ示セリ。

即チ之レヲ肺結核病期ニ對比區別スレバ第一期肺結核患者ニ屬スル者一九名(乾性一四名濕性五名)即チ七・六%ニシテ、
第二期肺結核患者ナル者七三名(乾性六五名濕性八名)即チ二九・二%、第三期肺結核患者ナル者八一五八名(乾性一四六
名濕性一二名)即チ六三・二%ナリ。之レヲ更ニ男女性及肋膜炎罹患側ニ依ツテ區別スレバ男子ハ第一期一三名(八・七%)

ニシテ、右側六名(四・〇%)、左側七名(四・七%)、第二期五〇名(三三・三%)ニシテ右側二四名(一六・〇%)左側一九名(一二・七%)兩側七名(四・七%)、第三期八七名(五八・〇%)ニシテ右側二〇名(二三・三%)左側五五名(三六・七%)兩側一二名(八・〇%)ナリ。女子ハ第一期六名(六・〇%)ニシテ右側三名(三・〇%)兩側三名(三・〇%)、第二期二三名(三・〇%)ニシテ右側七名(七・〇%)左側一三名(一三・〇%)兩側三名(三・〇%)ナリ、第三期ハ七一一名(七一・〇%)ニシテ右側二二名(二二・〇%)、左側四三名(四三・〇%)兩側六名(六・〇%)ヲ示セリ。

之ヲ要スルニ初期肺結核患者ニハ右側肋膜炎ヲ合併セル者稍々多く、第二期ニアリテハ左右大差ナク、而シテ第三期ニアリテハ左側ノ方著シク多キヲ示セリ。是前記肺結核其者ノ統計ト略々平行セル事實ナリ。

第三章 肺結核患者ノ臥位ニ就テ

余ガ調査セル肺結核患者合計一二〇〇名ニシテ、罹病患側ノ調査ト同時ニ其ノ臥位ニ就キ一々尋問シテ患者ノ誤ラザル答ヲ得ルニ努メタリ。即チ男子八〇〇名、女子四〇〇名ニ就キ、先ヅ左右何レノ偏側ガ肺結核ニ罹病シ居ルカラ診査シ、而シテ患者ハ其罹病側ヲ上ニセリヤ下ニセリヤ、或ハ仰臥ナルカ將又兩側臥ナルカラ區別シ、同時ニ斯カル臥位ヲ取ル患者ガ發病前何レノ臥位ヲ取リシカ、現在ノ臥位トノ關係如何ヲ比較考察セリ。尙患者ガ一定ノ臥位ヲ取レルハ如何ナル動機ニヨリシカラモ注意シテ調査シタリ。

第一節 男子肺結核患者八〇〇名ニ於ケル患側ト臥位

即チ第三表ニ示ス如ク右側罹病例三三四名(四一・八%)ノ内左側臥七六名(九・五%)右側臥九九名(一二・四%)仰臥二九名(一六・一%)兩側臥三〇名(三・八%)。左患側例三一一三名(三九・一%)ノ内、左側臥七四名(九・三%)、右側臥八六名(一〇・七%)仰臥一二二名(一五・三%)、兩側臥三一名(三・九%)ニシテ又兩患側例一五三名(一九・一%)ノ内、左側臥二六名(三・三%)右側臥五六名(七・〇%)仰臥六三名(七・九%)、兩側臥八名(一・〇%)ナリ。

更ニ是等患者ノ發病前ノ臥位ヲ見ルニ、其割合次ノ如シ、現在ノ患側ト反對側臥位ヲ取リシ者二〇五名(二五・六%)ニシテ、其内左側臥即右患側患者七九名(九・九%)、右側臥(左患側患者)一二六名(一五・八%)ナリ。現在ノ患側ト同側臥

位ヲ取リシ者二一六名(二七・〇%)、其内左側臥(即左患側患者)七三名(九・一%)、右側臥(即右患側患者)一四三名(一七・八%)ニシテ、仰臥位、兩側臥位ヲ取リシ者ハ三七九名(四七・四%)ナリ。

患者一定ノ臥位ヲ取レル動機ノ分類ハ左ノ如シ。

- 1、從來ノ習慣ニ依ル者 三八三名(四七・九%)
- 2、胸部症狀等ニヨリ自然ニ定マリタル者 三六六名(四五・八%)
- 3、他人ノ注意又自ラノ考ヘニヨリ故意ニ定メタル者 二九名(三・六%)
- 3、他ノ疾患ニ依ル者 一四名(一・八%)
- 4、其ノ他 八名(一・〇%)

第二節 女子結核患者四〇〇名ニ於ケル患側ト臥位

第四表ニ示ス如ク右患側例一五三名(三八・三%)ノ内左側臥三八名(九・五%)、右側臥四七名(一一・七%)仰臥五一名(二・八%)、兩側臥一七名(四・三%)。左患側例一八四名(四六・〇%)ノ内、左側臥三七名(九・三%)、右側臥六三名(二五・八%)、仰臥五八名(一四・五%)、兩側臥二五名(六・二%)。兩患側例六三名(二五・八%)ノ内、左側臥一三名(三・三%)右側臥二四名(六・〇%)、仰臥二五名(六・二%)、兩側臥一名(〇・三%)ナリ。

更ニ是等患者ノ發病前ノ臥位ヲ見ルニ、其割合次ノ如シ。現在ノ患側ト反對側臥位ヲ取リシ者九五名(三三・八%)ノ内左側臥(即右患側患者)二四名(六・〇%)、右側臥(即左患側患者)七一名(一七・八%)ナリ。現在ノ患側ト同側臥位ヲ取リシ者一〇八名(二七・〇%)ノ内、左側臥(即左患側患者)四一名(一〇・三%)、右側臥(即右患側患者)六七名(一六・八%)ニシテ、其他仰臥又ハ兩側臥ノ者一九七名(四九・三%)アリ。

患者一定ノ臥位ヲ取レル動機ノ分類左ノ如シ。

- 1、從來ノ習慣ニ依ル者 一五〇名(三七・五%)
- 2、胸部症狀等ニ依リ自然ニ定マリタル者 二二八名(五七・〇%)

- 3、他人ノ注意又自ラノ考ヘニ依リ故意ニ定メタル者 六名 (一・五%)
- 4、他ノ疾患ニ依ル者 一三名 (三・三%)
- 5、其ノ他 三名 (〇・八%)

第三節 患側ト臥位ノ關係ニ對スル總括

第三表ニ示ス如ク、男子肺結核患者八〇〇名中、左患側右患側及兩患側例ニ於テ、何レモ左側臥ヨリ、右側臥ヲ取ル者多數ナリ。即チ右患側例ニ在リテハ、左側臥七六名(九・五%)ナルモ、右側臥九九名(一二・四%)ノ多キヲ示セリ。次ニ左患側例ニ就テ見ルニ、左側臥七四名(九・三%)ニシテ、右側臥八六名(一〇・八%)ナリ。更ニ又兩患側例ニ就テ見ルニ、左側臥二六名(三・三%)ニ過ギザルニ右側臥ハ五六名(七・〇%)ノ多キヲ示セリ。右側罹患例左側罹患例及兩側罹患例ノ内、左右何レノ偏側臥ヲ取ル者多數ナリヤヲ見ルニ、右患側患者ガ右側臥ヲ取ル事ハ左患側患者ガ左側臥ヲ取ル事ヨリモ容易ナルガ如ク、又兩側罹患例ニ於テ見ルモ、左側臥ヨリ右側臥約二倍ヲ示セリ。今之レヲ發病前ノ臥位ニ比較シテ見ルニ、現在罹病側ニ對シ其反對ノ臥位ヲ取りシ者二〇五名(二五・六%)、其内左側臥七九名(九・九%)右側臥一二六名(一五・八%)ニシテ、發病前現在罹病側ト同側臥位ヲ取りシ者二一六名(二七・〇%)ノ内、左側七三名(九・一%)ニ對シ右側一四三名(一七・八%)ナリ。

又第四表女子肺結核患者四〇〇名ニ就テ見ルモ、稍々等シキ關係ヲ示セリ。即チ右患側例一五三名(三八・三%)ニ在リテハ左側臥三八名(九・五%)、右側臥四七名(一一・七%)ナリ、左患側例ニ就テ見レバ、一八四名(四六・〇%)ノ内、左側臥三七名(九・三%)、右側臥六三名(一五・八%)ニテ、即チ男子左患側患者例ニ比シ更ニ高率ヲ示セリ。其他兩患側例ニ於ケル臥位及ビ發病前臥位ノ割合等ニ在リテハ殆ンド大差ナキヲ示セリ。

動機分類ニ就テハ大體五種類ニ區別スル事ヲ得、其内胸部症狀ニ依ル者男子三六六名(四五・八%)、女子二五八名(五七・〇%)ニシテ、次ハ從來ノ習慣ニ依ル者男子三八三名(四七・九%)女子一五〇名(三七・五%)ナリ。其他人爲的ニ依ル者男子二九名(三・六%)女子六名(一・五%)ニテ他ノ疾患即チ胸部以外ノ疾病ニ依ル者男子一四名(一・八%)女子一三名(三・

三%)ナリ。

第四章 偏側肺結核患者ニ於ケル臥位ノ關係

前章ニ於テハ單ニ男女兩性ヲ區別シテ罹病側ニ對スル臥位ノ關係及其原因的動機分類ヲ比較記載セルモ茲ニハ更ニ(第五表參照)偏側罹病患者六三八名、即チ右患側例三二七名(五一・二%)(男二〇九名三二・九%)及左患側例三一一名(四八・八%)(女一一八名一八・三%)ニ就テ發病前ノ臥位ヲ發病後ニ變換セシ者ヲ觀察スルニ左ノ如シ。

男子右患側例中發病前ヨリ左側臥ヲ取り來レル者一三名(二〇・〇%)、發病後左側臥ニ變換セシ者一九名(三三・〇%)ニテ發病前ヨリ右側臥ヲ取り來レル者三四名(五三・三%)發病後右側臥ニ變換セシ者二六名(四一・一%)ナリ。

次ニ女子右患側例ニ在リテハ發病前ヨリ左側臥ヲ取り來レル者三名(〇・四八%)發病後左側臥ニ變換セシ者二名(三二・四%)ニシテ、發病前ヨリ右側臥ノ者二〇名(三二・一%)、發病後右側臥ニ變換セシ者一三名(二一・〇%)ナリ即チ右側罹病患者ガ發病後臥位ヲ左側臥ニ變換セシ者比較的多ク、殊ニ女子ニ於テ著シク多カリキ、然レドモ右側罹患者ニシテ右側臥ノ者ニアリテハ發病後始メテ此臥位ニ變換セシ者格別多カラズ。

而シテ此關係ヲ左側患者例ニ就テ見ルニ男子ニテ發病前ヨリ左側臥ナリシハ一〇名(一・六%)發病後左側臥位ニ變換セシハ一四名(二・七五%)ニシテ、發病前ヨリ右側臥ナリシ者二一名(三二・一%)發病後右側臥位ニ變換セシ者三三名(五・一%)ナリ。女子ニアリテハ發病前ヨリ左側臥六名(〇・九五%)發病後左側臥位ニ變換セシ者一三名(二一・〇%)、又右側臥ヲ取レル者ニアリテハ發病前ヨリ右側臥二七名(四一・一%)發病後右側臥ニ變換セシ者三八名(六六・〇%)ナリ。即チ左患側例ニアリテハ男女共、左側臥モ右側臥モ發病後ニ斯ク變ゼシ者多キヲ見ル。

更ニ又上記偏側罹病患者六三八名ノ中、臥位ヲ一定セザル者一一八名ヲ除キ、單ニ右側ニ臥位ヲ取ル者五二〇名ニ就テ、罹病側ヲ上ニ臥スカ下ニ臥スカヲ區別スレバ左ノ如シ。

即チ患部ノ上下ニヨリテ臥位ヲ區別スレバ、患部ヲ上ニセルモノ稍々多ク、而シテ患部ヲ下ニスルモノニアリテハ右側罹病者比較的多ク之レニ反シテ患部ヲ上ニスルモノニアリテハ左側罹病者多キヲ見ルナリ。

偏側臥例
五二〇名

患部ヲ下ニシテ臥ス者二五七名(男一七三名) 左側臥一一名(左側罹病者)
 患部ヲ下ニシテ臥ス者二五七名(女八四名) 右側臥一四六名(右側罹病者)
 患部ヲ上ニシテ臥ス者二六二名(男一六二名) 左側臥一四四名(左側罹病者)
 患部ヲ上ニシテ臥ス者二六二名(女一〇一名) 右側臥一四九名(右側罹病者)

余ハ又此調中小數例ナガラ參考トシテ、患者ニ對シ入所前ノ治療醫ヨリ患側ヲ上下何レニスベキカノ指示ヲ受ケシヤヲ尋テシニ臥位ノ注意ヲ受ケシ者二十五名アリ、此ノ内唯單ニ患部ヲ上ニセヨト言ハレシ者十二名(四八・〇%) 仰臥位ガ良シト云ハレシ者七名(二八・〇%) 患部ヲ下ニセヨト云ハレタル者六名(二四%) ナリ。

第 一 表

	右 患 側 例				左 患 側 例				總 計	
	右 側	主トツテ右側	合 計	兩側殆ソド等ツ	左 側	主トツテ左側	合 計	數	%	
男	I 23	0	23	6	12	0	12	41	5.1	
	II 94	21	115	30	62	16	78	223	27.9	
	III 99	97	196	117	107	116	223	536	67.0	
合計	216	118	334	153	181	132	313	800		
女	I 13	0	13	2	6	0	6	21	5.3	
	II 45	5	50	11	54	5	59	120	30.0	
	III 53	37	90	50	70	49	119	259	33.5	
合計	111	42	153	63	130	54	184	400		
男	I 36	0	36	8	18	0	18	62	5.2	
女	II 139	26	165	41	116	21	137	342	28.4	

合計	152	12.7	134	11.2	286	23.9	167	13.9	177	14.8	165	13.8	342	28.6	795	66.3
Ⅲ	327	26.7	160	13.3	487	40.6	216	17.5	311	25.9	186	15.5	497	41.4	1200	
合計																

第 二 表

病期	右 肋 膜 炎		兩 側 肋 膜 炎		左 肋 膜 炎		總 計		
	數	%	數	%	數	%	數	%	
男	I	6	4.0	0	0	7	4.6	13	9.7
	II	24	16.0	7	4.7	19	12.7	50	33.3
	III	20	13.3	12	8.0	55	35.7	87	53.0
合計	60	33.3	19	12.7	81	54.0	150		
女	I	3	3.0	3	3.0	0	0	6	6.0
	II	7	7.0	3	3.0	13	13.0	23	23.0
	III	22	22.0	6	6.0	43	43.0	71	71.0
合計	32	32.0	12	12.0	56	56.0	100		
男 女 合計	I	9	3.6	3	1.2	7	2.8	19	7.6
	II	31	12.4	10	4.0	32	12.8	73	29.2
	III	42	16.8	18	7.2	98	39.2	158	63.2
合計	82	32.8	31	12.4	137	54.8	250		

第 三 表

患 者	側 臥 位	人 數	割 合 計		割 合	
			割 合	計	割 合	計
	左	76	9.5			

原 著 加藤Ⅱ肺結核患者ノ罹病側及臥位ノ關係ニ就テ

種 類	機 分	動 機 分		類 別
		人員	割合	
白	然	102	12.8	I
習慣	慣	281	35.1	
呼吸	咳	113	14.1	II
呼吸	困難	169	21.1	
喉	痛	40	5.0	III
喉	血	16	2.0	
咽	喉	1	0.13	IV
咽	痛	23	2.9	
苦	イ	1	0.13	V
痰量多	キ爲メ	3	0.4	
助腹炎	ノ爲メ	1	0.13	III
人	爲	27	3.4	
迷	信	2	0.3	IV
鼻	病	2	0.3	
鼻	炎	3	0.4	V
心	不眠	6	0.8	
胃	痔	3	0.4	IV
胃	瘻	1	0.13	
肩	不	1	0.13	V
肩	真	7	0.9	

種 類	機 分	動 機 分		類 別	
		人員	割合		
右 患 側 例	仰	99	12.4	317	41.75
		129	16.1		
左 患 側 例	仰	86	10.7	301	39.13
		122	15.3		
兩 患 側 例	仰	31	3.9	182	22.75
		26	3.3		
發 病 前 臥 位	同 側 臥 位	74	9.3	216	27.0
		30	3.8		
發 病 前 臥 位	反 對 側 臥 位	79	9.9	205	25.6
		126	15.8		
發 病 前 臥 位	仰 臥 位 兩 側 臥 位	73	9.1	379	47.37
		143	17.8		
發 病 前 臥 位	同 側 臥 位	0	28.9	0	0
		231	28.9		
發 病 前 臥 位	仰 臥 位 兩 側 臥 位	0	18.5	0	0
		148	18.5		

(男子 800 名ニ對スル割合)

第 四 表

患側	側臥位	人數	割合	合計	割合	動機分類											
						種類	人員	割合	合計	割合							
右患側例	左	38	9.5	153	38.3	種別	人員	割合	合計	割合							
	右	47	11.7														
	仰	51	12.8														
兩	左	17	4.2	184	46.0							自然	46	11.3	150	37.5	I
	右	47	11.7	63	15.8							習慣	105	26.3			
左患側例	仰	58	14.5	184	46.0							呼吸困難	60	15.0			
	兩	26	6.5									疼痛	103	25.8			
	左	13	3.3	喉痛	5							1.3	228	57.0		II	
兩患側例	右	24	6.0	63	15.8							苦味	1	0.25			
	仰	25	6.2									咽痛	15	3.8			
	兩	1	0.3	痰量多キ爲メ	7							1.8					
發病前ノ臥位	左	24	6.0	95	23.8							肋膜炎ノ爲メ	2	0.5			
	右	71	17.8									人的	6	1.5	6	1.5	III
	反對側臥位	左	41	10.3	108							27.0	迷信				
同側臥位	右	67	16.8	胃腸及心臟									6	1.5			
仰臥位兩側臥位	左	79	19.8	197	49.3	腰疼痛及脊椎「カリエス」	5	1.3	13	3.3	IV						
	右	118	29.5			不眠	2	0.5	3	0.8	V						

(女子400名ニ對スル割合)

第

五

表

原 著 加藤II肺結核患者ノ罹病側及臥位ノ關係ニ就テ

患側	現在臥位	發病前後ノ臥位		男子 人員	割合	女子 人員	割合	合計	割合	患側		現在臥位	發病前後ノ臥位		男子 人員	割合	女子 人員	割合	合計	割合
		左側臥位	右側臥位							左側臥位	右側臥位									
右 患側 患者	左側臥位	發病前ヨリ左側臥位	發病後ヨリ	13	2.0	3	0.48	327	51.2	左 患側	左側臥位	發病前ヨリ左側臥位	發病後ヨリ	10	1.6	6	0.95	311	48.8	
		發病前ヨリ右側臥位	發病後ヨリ	19	3.0	22	3.4				左側臥位	發病前ヨリ右側臥位	發病後ヨリ	14	2.2	13	2.0			
	右側臥位	發病前ヨリ右側臥位	發病後ヨリ	34	5.3	20	3.1			右側臥位	發病前ヨリ右側臥位	發病後ヨリ	21	3.1	27	4.1				
		發病前ヨリ仰臥位	發病後ヨリ	26	4.1	13	2.0			右側臥位	發病前ヨリ仰臥位	發病後ヨリ	33	5.1	38	6.0				
	仰臥位	發病前ヨリ仰臥位	發病後ヨリ	38	6.0	8	1.3			仰臥位	發病前ヨリ仰臥位	發病後ヨリ	28	4.4	8	1.3				
		發病前ヨリ兩側臥位	發病後ヨリ	61	9.6	32	5.0			仰臥位	發病前ヨリ兩側臥位	發病後ヨリ	53	8.3	22	3.4				
	兩側臥位	發病前ヨリ兩側臥位	發病後ヨリ	7	1.1	11	1.7			兩側臥位	發病前ヨリ兩側臥位	發病後ヨリ	7	1.1	8	1.3				
		發病後ヨリ	發病後ヨリ	11	1.7	9	1.4			兩側臥位	發病後ヨリ	發病後ヨリ	12	1.9	11	1.7				

(偏側癱瘓者 638 名ニ對スル割合)

第六表 肺結核患者六十名ヲ選ビ患側臥位(患部ヲ下ニス)ヲ命ゼン實驗例)

(實行不可ナリノ例)

(實行可能ナリシモ一定期間後死亡)

(實行可能ニシテ輕快退所セシ例)

姓名	年齢	發病前臥位	病期	罹患側	姓名	年齢	發病前臥位	病期	罹患側	患側臥位		姓名	年齢	發病前臥位	病期	罹患側	患側臥位		
										開始日	繼續期間						開始日	繼續期間	
■	47	仰臥位	Ⅲ	左患側	■	26	仰又左側臥	Ⅲ	左患側	19/Ⅲ	9ヶ月間	■	24	仰臥	Ⅱ	右患側	19/Ⅲ	8ヶ月間	
■	26	”	”	左患側	■	39	仰臥	”	”	”	11ヶ月”	■	34	左側臥	”	”	”	”	7ヶ月”
■	18	左右仰位	”	”	■	25	右側臥	”	”	”	8ヶ月”	■	35	右側臥	Ⅲ	”	”	”	7ヶ月”
■	25	”	Ⅱ	左”	■	31	”	”	”	”	3ヶ月”	■	31	”	Ⅱ	左患側	22/Ⅲ	”	5ヶ月”
■	24	左或仰臥位	Ⅲ	右”	■	26	”	”	右”	”	5ヶ月”	■	22	仰臥	Ⅲ	”	”	”	7ヶ月”
■	21	側臥位	Ⅰ	左”	■	20	仰臥	”	”	22/Ⅲ	8ヶ月”	■	22	右側臥	Ⅱ	右”	”	”	5ヶ月”
■	21	仰臥位	Ⅲ	右”	■	24	右側臥	”	”	”	9ヶ月”	■	22	”	Ⅲ	左”	26/Ⅲ	”	7ヶ月”

37	"	"	左	31	,	"	"	,	5ヶ月	41	左側臥	"	"	"	5ヶ月
45	左右臥位	"	"	50	左側臥	"	左	"	5ヶ月	24	仰臥	"	右	"	3ヶ月
31	右側臥位	"	"	40	"	"	右	"	4ヶ月	28	左側臥	Ⅱ	"	5/IV	4ヶ月
36	左側臥位	"	"	20	右側臥	"	"	26/Ⅲ	7ヶ月	22	右側臥	Ⅲ	左	"	15ヶ月
21	右側臥位	"	"	44	仰臥	"	左	"	6ヶ月	26	左側臥	"	右	"	29ヶ月
22	"	"	"	33	"	"	右	"	5ヶ月	24	右側臥	"	"	"	15ヶ月
21	左右臥位	"	"	25	"	"	"	"	4ヶ月	69	"	"	"	"	34ヶ月
42	"	"	"	20	右側臥	"	"	"	3ヶ月	14名23.4%患側 右9名15.0% (現在尙繼續中ノ例)					
27	右側臥位	"	"	28	左側臥	"	左	5/IV	5ヶ月						
36	左側臥位	Ⅱ	"	41	"	"	右	"	4ヶ月						
33	右側臥位	Ⅲ	"	25	仰臥	"	左	"	14ヶ月						
31	"	"	"	38	左側臥	"	右	"	16ヶ月	52	右側臥	"	右	"	40ヶ月
45	"	"	"	30	仰臥	"	"	"	16ヶ月	56	仰臥	"	"	"	30ヶ月
				36	右側臥	"	"	"	18ヶ月	56	"	"	"	"	25ヶ月
										36	左側臥	"	"	"	26ヶ月

20名33.3%
 左16名26.7%
 患側右4名16.7%

21名35%患側
 左8名13.3%
 右13名21.6%

5名8.4%患側
 左1名1.6%
 右4名6.8%

第五章 統計ノ結果ニ對スル考察

儲テ當初余ガ豫想セシ處ニヨレバ、多クノ患者ニアリハ患部ヲ自然ニ保護スル意味ニテ、本能的ニ患側ヲ下ニ臥スナル
 ベク、恐ラク之ヲ統計的ニ立證シ得ベシト思惟シタリシモ、調査ノ結果ハ前記ノ如ク、患側ヲ上ニスル患者ノ割合ニ多
 キ事實ヲ知ルニ至レリ。然レドモ余ノ材料ハ全部東京市療養所患者ニシテ重症者比較的多數ニテ入所前ノ經過モ永ク、
 從テ病變ハ複雑ニシテ而カモ廣汎ニ互リ、第二期、第三期ノ者多數ナルヲ以テ今後尙初期ニシテ病變單純ナル病例ニ就キ

テ同様ノ調査ヲ行フコトハ意義多キコトナラント思惟シ、他日之ガ觀察ヲ追加スルノ機會アルヲ期ス。

第六章 患側臥ヲ採ラシメシ實驗例

以上各章ニ互リ、肺結核患者ノ患側ト臥位ノ關係ニ就テ大略ヲ記載セリ。依ツテ余ハ茲ニ、患側ヲ下ニスル事ノ合理的ナリトノ考察ニ基キ、其ノ實行ノ可能性及其ノ效果ニ就テ實驗批判センコトヲ企テ大正十四年三月以來多少ノ觀察ヲ遂ゲタリ。最初六十名ノ患者ニ就テ特定ニ一定側ノ臥位ヲ取ラシメタリシガ(第六表參照)、内二十名(左患側一六名、右患側四名)ハ命令ヲ嚴守スルコト能ハザリキ。然ルニ殘餘四十名ハ好ク之ヲ守リ實行シ得タル者ナリ。

此實行可能ナリシ四十名ノ内二十一名(左患側八名一三・三%、右患側三名一・六%)ハ三ヶ月乃至十六ヶ月ニ互リ患側臥ヲ守リ得タルモノナルガ終ニ死亡セリ。而シテ他ノ十四名ハ三ヶ月乃至三十四ヶ月間患側臥ヲ守リ輕快退所シ殘餘ノ五名ハ既ニ二十五ヶ月乃至四十ヶ月患側臥ヲ取リテ今猶繼續シツ、アリ。此外余ハ常ニ此經驗ヲ反復シ、可ナリ廣キ範圍ニ於テ之レガ可能ナリシコトヲ實驗セリ。

余ガ特ニ長期間觀察セシ前記四十名ノ症例中ニモ胸痛、動悸、呼吸困難等ノ爲メ患側ヲ下ニ臥スコトハ實行困難ナリシ者六名(二五%)アリ當初此ノ臥位ヲ欲セザリシモ徐々ニ舊習慣ヲ破リ患側ヲ下ニスベキ命令ニ從ヒ遂ニ臥位ヲ改メ得テ苦痛ノ輕快ヲ覺へ、輕キハ五ヶ月長キハ十六ヶ月モ之レヲ實行シ得タル者アリ。

姓名	年齢	實驗前ノ臥位		罹病側	繼續期間
		發病前	發病後		
■	二二	右側臥位	仰臥位	左	七ヶ月
■	二四	〃	〃	右	十五ヶ月
■	三〇	仰臥位	〃	〃	十六ヶ月
■	三〇	〃	〃	左	五ヶ月
■	三一	右側臥位	〃	〃	七ヶ月
■	三三	仰臥位	〃	〃	六ヶ月

患側 左右 4名 > 計 6名
2名

故ニ患者ガ患側ヲ下ニナシ難シト言フ場合ト雖モ之レヲ改メシムルコト可能ナルノミナラズ好經過ヲ見ル場合アルヲ注意セザルベカラズ。尙余ハ苦痛多ク又發熱シ易キモノニハ患側臥位ヲ採ル前ニ胸部ニ細長キ判瘡膏ヲ貼布シテ深呼吸又ハ咳嗽等ノ刺戟ヲ輕減シ置キ、然ル後次第ニ患側臥ヲ練習セシメ往々咳嗽、胸部苦痛、熱等ノ輕減スルコトアルヲ經驗セリ。以上ノ經驗ニヨリテ知り得タル事ハ多少ニ拘ハラズ患者ノ自覺症狀ノ輕快

セルコトニテ、氣分良、呼吸樂喀痰ノ喀出シ易キコト、下熱、盜汗ノ減少等ヲ告ゲタリ、從テハ余ハ患側ヲ下ニスルコトハ大體ニ於テ獎勵スベキモノト思惟セリ。然シ實行困難ノ例ノ存スルコトモ事實ナリ。殊ニ表ニ示ス如ク左側罹病患者ノ場合患部ヲ下ニセシメ難キ例多シ是發病前ヨリ右側臥ノ習慣ナル者一般的ニ多キコト及ビ心臟壓迫ニヨル苦痛等モ關係スルナラン。

總括的觀察

- 1、余ハ先男女合計一二〇〇名ニ就テ罹患側ノ統計的調査ヲナシタルニ、初期ニアリテハ左側患者ヨリモ右側患者ノ多キヲ示シ、病期ノ進ムニ從ヒ反對ニ右側患者少ナク却ツテ左側患者ノ多キヲ示セリ。
- 2、肺結核ニ合併セル肋膜炎ノ罹病例ハ肺結核第一期患者ニシハ右側肋膜炎多ク、第二期患者ニテハ左右大差ナク、第三期患者ニ在リテハ左側肋膜炎ノ方多數ナリキ。
- 3、患者ガ現在如何ナル臥位ヲ取ル習慣ナリヤヲ調査セルニ右側罹病者三百二十七名中患側即チ右ヲ上ニ臥ス者男子三十二名女子二十五名、患側ヲ下ニ臥ス者男子六十名女子三十三名、其他ノ患者ハ仰臥又ハ左右不定臥ナリ。即チ右患側患者ニアリテハ患側ヲ上ニシテ臥ス者五十七名ニ對シ患側ヲ下ニ臥ス者九十三名ノ多キヲ示モリ。之レニ反シテ左患側患者ニアリテハ患側即チ左ヲ上ニシテ右側臥ヲナス者男子五十四名女子六十五名、患側ヲ下ニ左側臥ヲ取ル者男子二十四名女子十九名、其他ノ患者仰臥又ハ左右不定臥ナリ。即チ左患側患者ニアリテハ患側ヲ上ニ臥スモノ合計百十九名ニ對シ患側ヲ下ニ臥ス者四十三名ニ過ギズ。而シテ患者ガ臥位ヲ一定セル原因或ハ動機ハ發病前ヨリノ習慣ニヨルモノ多ク、發病後ニ一定セル者ニテハ胸部症狀ニ起因スルモノ過半数ヲ示ス、又症狀ニ餘儀ナクサレシニアラズシテ治療上ノ目的ニテ人爲的ニナセルモノモアリ。
- 4、更ニ偏側罹病患者ノ臥位ニ就キ發病前後ニ於ケル臥位變換ノ關係ヲ見ルニ、右患側患者ニアリテハ患側臥ハ發病前ヨリノ者ノ方發病後初メテ斯ク變換セシモノヨリモ多數ナレドモ、左側臥(患側ヲ上ニ臥ス)ハ發病後ニ斯クナル者多シ。

此關係ヲ左側罹病患者ニ就テ見ルニ、患者ヲ下ニ(即チ左側臥)スル者モ、之ト反對ノ者モ、何レモ發病後ニ其臥位トナレル者ノ方從來ヨリ然リシ者ヨリ多シ。

5、余ハ特ニ六十名ノ患者ニ就キテ患側臥ヲ命ジタリシガ内二〇名ハ實行不可能ニ終リ、殘餘四〇名ハ患側臥ヲ實行シ得タリ。其内二十一名患側左八名右十三名ハ三ヶ月乃至十八ヶ月間患側臥ヲ持續セシガ死亡セリ。尙ホ十四名(患側左五名右九名)ハ三ヶ月乃至三十ヶ月之ヲ實行シ輕快退所セリ其他ノ五名(患側左一名右四名)ハ二十五ヶ月以上四十ヶ月ニ互リテ實行シ現在尙ホ繼續中ノ者ナリ。

而シテ患側臥ヲ實行セシムル場合患者ノ自覺症狀ノ輕快セシコト稀ナラズ。

6、R. Steiner 及 G. Liebermeister ハ空洞ノ位置ヲ定メ喀痰喀出ノ容易ナル臥位ヲ最適トナスモ、余ガ實驗例ニ於テハ必ズシモ然ラズ、患側臥ヲナシ得タル患者中空洞所有者ノ多クハ毎朝一回或ハ二回(朝夕)患側ヲ上ニシテ喀痰ノ喀出ヲ容易ナラシムルヲ以テ足レリ、喀痰ヲ少量ヅ、絶ヘズ喀出スルハ肺患者ノ最モ厭フ處ナルガ故ニ之等ノ患者ニ喀痰喀出ヲ容易ナラシムル意味ニ於テ患側ヲ絶ヘズ上ニナサシムルコトハ推奨スベキコトニハアラザルガ如シ。

7、又余ガ實驗症例中ノ患側臥實行ノ可能者ト不可能者トヲ比較スルニ不可能ナル者ニ於テハ患部ヲ左側ニ有スル者ガ大部分ヲ占ム、之レニ反シテ可能ナル例ニ於テハ右側ニ患者ヲ有スルモノ多キヲ示セリ。

8、病竈ガ左右何レニ在ル場合モ、右側臥ヲ好ム患者多キ事實ハ既ニ發病前ニ於テ右側臥ノ習慣ヲ有スル者多キコトモ一因ナルベク、又左側臥ヲ採ルコトガ心臟壓迫ニヨリテ心悸亢進ヲ來シ、又ソレヲ増シ或ハ心動ニヨリテ疼痛又ハ不快、咳嗽等ヲ増スコトアルニ因ルガ如シ。

9、罹患側ガ左右何レナル場合ニモ患側臥ヲ遂行シ難キ例アリ、故ニ例外ナシニ患側臥ヲ強要スルハ不可ナリ殊ニ罹患側ガ左ナル場合ハ此點ニ注意ヲ拂ハザルベカラズ。

終リニ臨ミ、御校閱ヲ賜リシ東京市療養所長田澤博士及本作業ヲナスニ當リ終始懇篤ナル御指導ニ預リシ前副所長遠藤繁清博士ニ滿腹ノ感謝ヲ表シ、尙東京市療養所醫局先輩諸士ノ助力ヲ謝ス。

Literatur.

- 1) **M. Gnoststein**, Ztschr. f. Tbc. Bd. 26. Heft. 5. p. 336. 2) **A. N. Rubin**, Beitrage zur Kl. der Tbc. Bd. 18. 1911. 3) **A. Bauer**, Beitrage zur Kl. der Tbc. Bd. 19. 1911. 4) **A. E. Mayer**, Ztschr. f. Tbc. Bd. 36. p. 338. 1922. 5) **Oskar Bruns**, Beitrage z. Kl. d. Tbc. Bd. 29. 1914. 6) **A. E. Mayer**, Ztschr. f. Tbc. Bd. 36. H. 5. S. 256. 1922. 7) **K. Aoyama**, Ztschr. f. Tbc. Bd. 38. p. 22. 1922. 8) **A. E. Mayer**, Ztschr. f. Tbc. Bd. 29. 1918. 9) **N. J. Strandgaard**, Ztschr. f. Tbc. Bd. 16. Heft. 4. p. 326. 1910. 10) **A. E. Mayer**, Minch. Med. Wchschr. Nr. 32. 1920. 11) **A. E. Mayer**, ztschr. Tbc. Bd. 16. 1910. 12) **F. Seufferheld**, Beitrage zur Kl. d. Tbc. Bd. 28. 1913. 13) **S. A. Knopf**, Ztschr. f. Tbc. Bd. 37. p. 335. 14) **Sewall und Swezey**, Amer. Review of Tbc. September. 1921. p. 547. 15) **E. Loewenstein**, Handbuch des Gesamten Tuberkulose Therapie Bd. I. p. 442. 16) **Corper, Ganss and Rensch**, Amer. Review of Tbc. 1921. p. 562. 17) **Hugo Weber**, Ztschr. f. Tbc. Bd. 4. 1903. S. 505. 18) **S. Adolphus Hutopf**, Amer. Review of Tbc. Vol. IX. No. 4. 4924. 19) **G. Liebermeister**, Beitrage zur Kl. d. Tbc. (5. Bd. 4/5. Heft. 1927. 20) **Sewall Henry**, Amer. Review of Tbc. 1921. Vol. XI. p. 810. 21) **R. Steinerl**, Beitrage zur Kl. d. Tbc. 64. Bd. 5/6. Heft. Okt. 1926. 22) **Henry Sewall and Samuel Swezey**, Amer. Review of Tbc. 1921. Vol. 5. p. 546. 23) **遠藤繁清**, 結核. 第二卷. 大正十三年度. 24) **三戸時雄**, 臨牀醫學. 第八年. 第六號. 大正九年六月. 25) **三戸時雄**, 京都醫學會雜誌. 第十七卷. 第六號. 26) **田澤憲二, 小林正男**, 肋膜炎ノ統計. 昭和三年四月. 結核病學會報告. 27) **遠藤繁清**, 東西醫學大觀. 第十二號. 昭和3年9月. 29) **Andreas Pfenk und Ralph C. Manson**, Beitrage z. Kl. d. Tbc. 62. Bd. 34. H. 1926. 30) **Glongh Turritt Burnett**, Amer. Review of Tbc. Vol. XIV. No. 2. 1926. 31) **Steinert, D. Med. W. November.** 1911. Nr. 19. 32) **A. Schmidt**, Beitrage z. Kl. d. Tbc. Bd. 9. H. 3. 1908. 33) **H. Maendel**, Kollaps Therapie der Lungentuberkulose. 1927. 34) **Kremer**, Beitrage zur Kl. d. Tbc. 61 Band. 6. Heft. 1925. 35) Handbuch der Gesamte Tuberkulose-Therapie. Band II. 36) **Brauer, Schröder, Himmelfeld**, Handbuch der Tuberkulose Band. II. 1923.